

# 地域振興助成 2020 年度採択事業 活動紹介

## 瀬戸内海地域振興助成

### 1. 讃岐六条水車の復元と保存活用

#### 高原水車友の会

代表者名：平田 恵美

江戸時代末期に作られた水車が四国で唯一高松市六条町に現存している。地形や自然環境と共存してきた讃岐の文化・技術・産業を伝えていくために、水車の再稼働への整備を進めながら、道具の展示やワークショップの実施による憩いの場づくりの活動に取り組んでいる。



### 2. 飛島観光ガイドとレジャーイベントによる飛島PR

#### 飛島ガーディアンプロジェクト

代表者名：日置 幸

飛島は島民の90%以上が高齢者の限界集落である。飛島の魅力を実感した高校生（当時）らが中心となり発足。伝統行事のサポート、島の清掃活動を行うなど島民との継続的な接点を創出したり、島外からの来訪者向けにイベントを開催したりと交流人口の増加を図るとともに、島の伝統行事や自然が衰退しないよう、少しでも長く飛島の日常が継続するよう、活動している。

Facebook：<https://www.facebook.com/hishimaguardianproject/>



### 3. 鞆の浦の大正期を代表する吉本家住宅の保存・活用プロジェクト

#### 特定非営利活動法人鞆まちづくり工房

代表者名：松居 秀子

鞆の浦の港町には贅をつくした大商人の家々が立ち並ぶが、地域の高齢化が進み、重要伝統的建造物群保存地区外では空き家の取り壊しも進んでいる。吉本家住宅は大正期を代表する商人住宅だが、保存地区より外れているため現在まで保全活動が行われてこなかった。登録文化財制度を利用し地域を巻き込み、活用されることで地域への賑わいをもたらすための活動を行っている。そのほか持続のための後継者の育成にも取り組んでいる。

Website：<http://www.vesta.dti.ne.jp/~npo-tomo/top/toha.html>



#### 4. 地域を知り、地域に誇りを持つための「子どもが参画するジオツアー」の開発 讃岐ジオパーク構想推進準備委員会

代表者名：長谷川 修一

讃岐ジオパーク構想推進準備委員会では、地域の特性と魅力を理解した人材育成のため、子どもから大人を対象とした教育を実施し、ジオツアーやシンポジウムを通して地域の魅力を再発見し、地域に誇りを持つ仕掛けづくりに取り組んでいる。2020年2月のシンポジウムでは、観音寺市立伊吹小学校のジオ教育について発表を行った。この発表は、11月実施予定の「伊吹小学校児童が案内する伊吹島」と連携している。

Website: <http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/~hasegawa/geosite.html>



#### 5. 瀬戸内海の離島集落における「生きた景観づくり」－ 男木島らしい住空間存続のための取り組み

安部良アトリエ一級建築士事務所

代表者名：安部 良

100軒程度の密集した集落と瀬戸内海がつくる独自の景観が魅力の男木島。過疎化や空き地の増加により景観の維持が困難になっている一方、移住者による新しい生活スタイルも生まれつつある。男木島特有の景観を「生きた景観」として継承していくため、空き家の調査や景観づくりのための活動を行う。

Website : <https://aberyo.com/>



#### 6. MAKE ! REMAKE ! ミハラダルマ RoFReC

代表者名：岡田 吉弘

三原三大祭りの一つであるだるま市（神明市）。作り手の不足で衰退が危惧されている三原の伝統民芸品である「三原だるま」が地域の特色として市民に親んでもらえるよう、プログラミングと融合。現代技術と伝統文化をミックスすることで、小学生を中心に教育を通じての「三原だるま文化」の普及を目指している。

Website : <https://www.rofrec.jp/>



## 7. 石切りの道具づくりと石切りの技術（矢穴技法）への挑戦による地域力創造プロジェクト

代表者名：川宿田 好見

大坂城築城より様々な歴史的建造物に関わってきた歴史のある小豆島福田地区の「福田の石」。石の文化や技術の調査研究をおこない、「石とともにある場所」として、石切り体験や石工の技術に触れ合える場所を設け、技術と文化を継承していく活動を行う。



## 8. 豊島 KIMAMORI▲Work1～「豊島に生きる（た）親や住まい」への島外別居子の想いをナラティブとして編み、古民家を対話空間として試験活用する～

代表者名：小澤 詠子

豊島出身の人々でも世代間の交流が減り、文化や暮らしの継承が課題となっている。豊島の住民と島外にいる子や遺族の思いと暮らしを対話を通じて引き出し、島内外の孫子世代へ伝え繋いでいく活動。自宅ではないパブリックスペースを利用し、活発な交流と島内外のコミュニティづくりを促すとともに、福祉サービスの充実など地域産業おこしへの貢献も目指す。



## 9. 地域資源を活用した芸予諸島島嶼部集落再活性化のための持続的活動

日高仁/関東学院大学+西澤高男/東北芸術工科大学

代表者名：日高 仁

大三島は過疎化が進み、空き家が増加し、地域資源の活用と産業の再興が課題となっている。一方で、弓削島では移住者が増加し、魅力的な観光拠点ができつつある。こうした芸予諸島の離島同士をつなげ、持続的な交流を促すため、空き家や空きインフラを活用して魅力的な場を生み出すための実験的かつ実践的な活動に取り組む。

